

図 5.4-22 2004 年～2008 年の 7 月の風の平均場

表 5.4-7 各河川の流量

河川名	流量 [m ³ /s]	流量観測所
庄内川	34.93	枇杷島
木曽川	380.12	犬山
長良川	235.03	墨俣
揖斐川	165.06	万石、高淵
鈴鹿川	9.90	高岡
中の川	1.00	木鎌橋
安濃川	1.90	御山荘橋
雲出川	11.07	大仰
櫛田川	15.21	両郡
宮川	31.59	岩出
矢作川	62.57	米津
豊川	43.86	当古

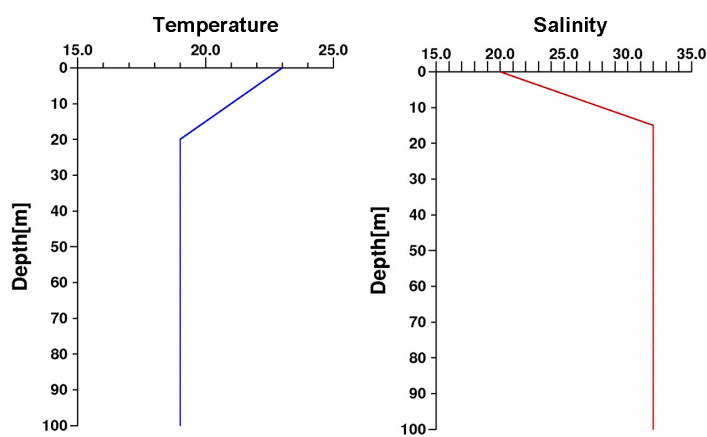


図 5.4-23 水温と塩分の初期値の鉛直プロファイル

(d) 漂流経路の計算条件

漂流経路の計算は冬季と同様の手法を使用する。漂流物として冬季の漂流調査に使用した GPS 携帯電話発信機付漂流ボトルとペットボトルを想定した。表 5.4-8 に各ボトルの沈下率を示す。

表 5.4-8 各ボトルの沈下率（夏季シミュレーション）

漂流シミュレーションの対象	沈下率
GPS 携帯電話発信機付漂流ボトル	29%
ペットボトル	14.5%

(3) 調査結果

a. 冬季シミュレーション結果（平成 19 年度）

(a) 流動場の計算結果

小潮の期間における流入と流出最強時の表層流速ベクトルと海面変位の水平分布図を図 5.4-24 に示す。流入最強時は湾全体で湾奥へ向かう流れ、流出最強時には湾全体で湾口へ向かう流れとなっている。流速は湾口で強く 0.5 m/s 程度であり、湾奥に向かって弱くなり湾奥では数 cm ほどの流れしか存在しない。

大潮の期間における流入と流出最強時の表層の流速ベクトルと海面変位の水平分布を 5 図 5.4-25 に示す。小潮の期間と同様に流入最強時は湾全体で湾奥へ向かう流れ、流出最強時は湾全体で湾口へ向かう流れとなる。流速は湾口部で 1 m/s となり、湾口部でも 0.1 m/s ほどの流れが存在する。

図 5.4-26 に計算期間 1 ヶ月平均した流速ベクトルの水平分布を示す。潮汐成分を除いた冬季の伊勢湾の恒流と考える。全体的に流れは弱く 0.1 m/s 以下となっている。湾口付近に時計回りと反時計回りの渦対が存在する。また、伊勢湾の西岸に沿って湾口に向かう流れが存在する。三河湾でははっきりとした流れが見られない。

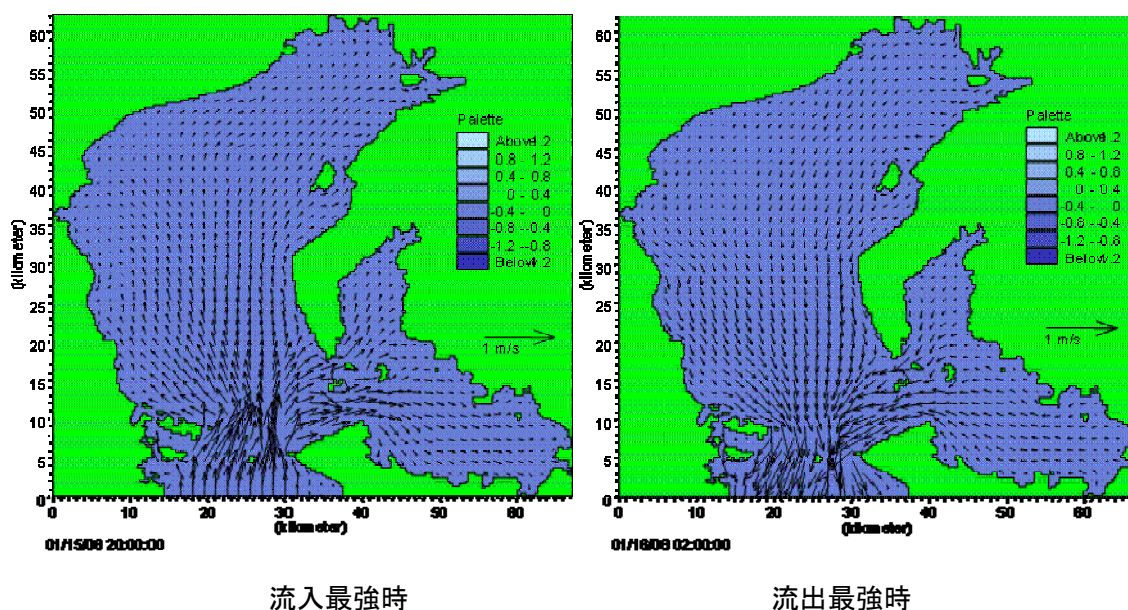


図 5.4-24 小潮期の流れと推移の水平分布図

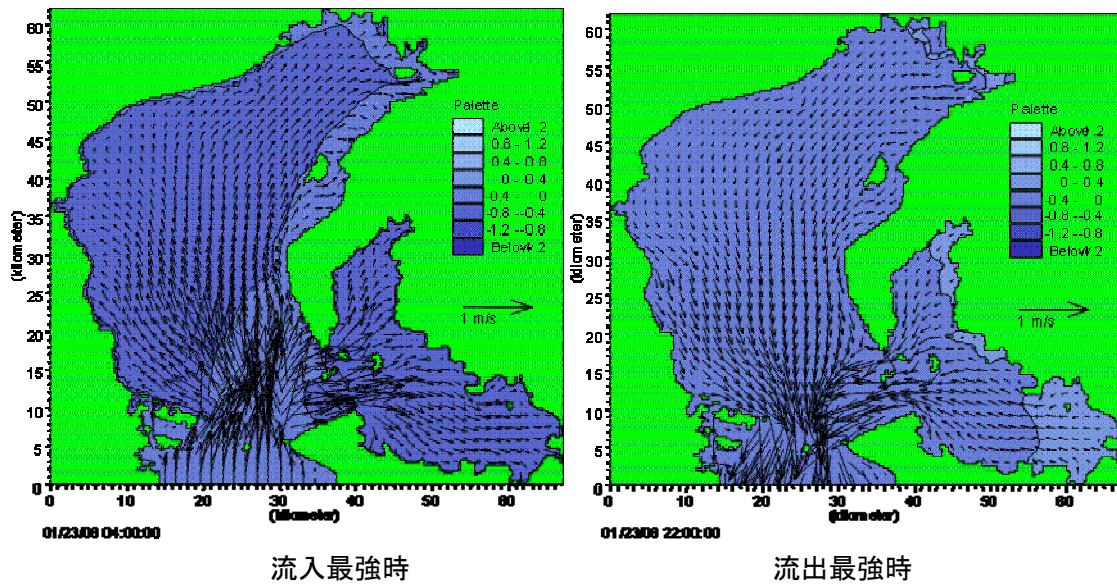


図 5.4-25 大潮期の流れの水平分布図

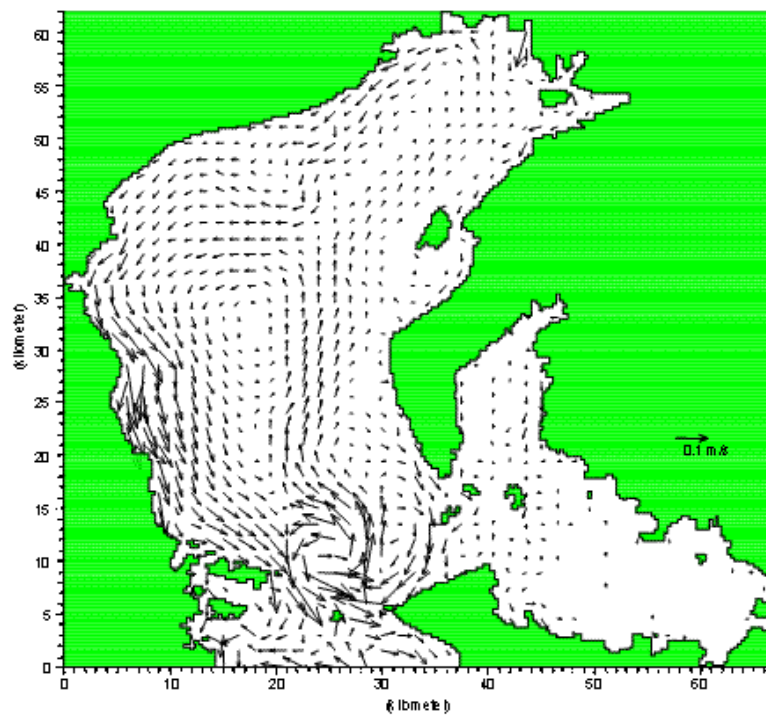


図 5.4-26 1ヶ月平均した流速の水平分布図

(b) 漂流物の追跡結果

漂流物追跡解析はアルゴスボトル、携帯ボトル、生分解性ボトルの3ケースを実施した。なお、漂流物は表 5.4-9 に示す時間および場所に各河川でアルゴスボトル1個、携帯ボト